

北井上小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 知・徳・体の調和がとれた輝く児童の育成
- ①豊かな心の育成
- ②確かな学力の育成
- ③健康・体力・強い意志の育成
- ④地域とともにある安全・安心な学校づくり

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 豊田 佳男
教諭 阿部 千晶 (研修主任)		教頭 塩田 史彦
		教諭 松尾 里恵
		教諭 高松 裕美 (特別支援コーディネーター)

校長

豊田 佳男

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○四則計算、漢字の読み書き等の基礎的・基本的な学習には意欲的に取り組み、力を付けている。授業が分かると答える児童が多い。(児童の自己評価で「学習内容が分かっている」が95.1%) ●どの学年も学力の二極化が進んでおり、学習への意欲や正確さにも個人差が見られる。 ●タブレットを使うと学習が分かりやすいと感じている児童が多く、学習効果が高まっているが、1割の児童はICTを使うことで分かりにくいと感じている。	・基礎的・基本的な学習の知識・技能を確実に身に付ける。 ・身に付けた技能について、他の教科の学習や、生活の場面において活用することができる。	・授業の5か条(①つかむ②考える③高め合う④まとめる⑤ふり返る)をもとに学習指導にあたり、学習内容の定着を図る。 ・学習時間は必ず「めあて」を提示し学習に対する見直しをもたせ、まとめでは、それに対する「ふり返り」を行う。 ・朝の学習時に、漢字や計算などの反復練習をし、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・学習内容や指導内容に応じて、効果的にタブレット等のICT機器を活用する。	継続して実行	・「学習内容が分かっている」と答えた児童が96.4%となり、高い数値を示した。基礎的・基本的な学習内容を習得していると実感している児童が多い。 ・「タブレットを使うと学習が分かりやすい」が95.5%となり、学習効果が上がると感じている児童が多い。T・T体制での授業を充実させたことや授業内でのICT利活用、ICT支援員とのT・T形式の授業を取り入れたことが要因と考えられる。	・授業の5か条をもとに学習指導にあたり、楽しく分かる授業づくりをする。 ・「授業中、友だちや先生の話をしっかり聞いている」と答えた児童が96.4%と高い数値を示していたので、意欲を無駄にしない、工夫した授業構成を考えていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○昨年度、「自分の思いや考えを説明したり、文に書いたりして、相手に伝えることができる」と考える児童が約8割いる。 ●進んでの発表は好むが、自分の考えを文章に書いて表すことが苦手だと感じる児童が目立つ。 ●ICT機器の使用の増加に伴い、「書く」機会が減り、「書くこと」に消極的な児童が増えている。	・各教科において、根拠や理由を明らかにして、筋道を立てて考え、表現したり書き表したりする力を身に付ける。	・「書く」ことへの苦手意識を少しでも緩和し、楽しんで書く学習を取り入れたり、目的や相手意識をもって文章を書く学習を設定したりする。〔日記指導の充実、克明峻徳の実(友達の良いところ見つけカード)の記入など〕 ・国語科に限らず「感想・ふり返りを書く」「したことを記録する」「思ったことや感じたことをメモする」など、様々な場面で書く機会を設け、書くことへの抵抗感を少なくする。また、友達と積極的に共有する。	継続して実行	・「授業中、自分の考えや思いを説明したり、文に書いたりして、相手に伝えることができる」と答えた児童は75.6%となり、昨年度と比べて少し上回ったものの、十分に達成できているとは言えない。 ・文章にまとめたり、自分の考えを発表したりする表現力に課題がある児童が多く見られる。	・子ども新聞を活用して、短い文章や論説文に親しませ、表現力の素地を養う。 ・一斉指導で発言がしにくい児童については、ICTを有効活用することで発言に限らず、表現の手段を設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習の習慣化・宿題への取り組みが定着してきている。 ○「読書が好き」が83.6%となり、読書を好む児童が増えている。(R3年度は66.9%、R4年度の77.9%と年々数値が上がっている。) ●家庭学習の習慣が身に付かない児童が見られる。	・各教科の学習に主体的に取り組む、自らの課題(授業のめあて)を解決することができる。 ・家庭学習を習慣づけ、苦手な課題に対しても粘り強く取り組む。	・全ての学力の基礎として読書活動を推進する。 ・週1回読書タイムをとり、読書時間を確保する。 ・1万冊読書運動、マイブックリストの活動を活用して学校における読書活動を推進し、質の高い読書活動と家庭での読書活動の啓発を行う。 ・「家庭学習の手引き」をもとに保護者の家庭学習への意識を高め、協力体制の強化を図る。	継続して実行	・「読書が好き」が69.3%となり、昨年度と比べて大きく下回った。R4年度より朝の読書タイムを導入したり、マイブックリストを活用した1万冊運動の活動を続けたりすることで、読書に親しむ機会を設けたけれど、読書離れが課題となっている。	・月1回の読み聞かせボランティアだけでなく、児童会活動や、授業内での読み聞かせの機会を増やし、読書の楽しさを味わわせるようにする。また、図書室の利用時間の確保をし、児童らが図書に親しむ活動を意図的に増やす。

令和6年度 学力向上ロードマップ

